

【評価実施概要】

事業所番号	175000553		
法人名	有限会社ライジング		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	北見市無加川町413番地10 (電話) 0157-22-6658		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	13人, 非常勤 5人, 常勤換算 17.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(12月9日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名	
要介護1	5名	要介護2	4名			
要介護3	5名	要介護4	1名			
要介護5	3名	要支援2	0名			
年齢	平均	84.2歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北見中央病院、守谷記念整形外科、金山歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北見市都心から西に10キロ無加川沿い南の団地中央に位置し、閑静な住宅街にある2階建て2ユニットのホームである。敷地内は広く、利用者が自家菜園を楽しみ、季節の花や野菜の最盛期には住民の憩いの場ともなるといふ。ホーム内は段差がなく手摺りが各所にあり、居室、居間、廊下、トイレ・風呂なども利用者や職員の動線を考慮し、介護しやすい機能環境に造作されている。職員は研修・訓練の機会を積極的に活用し、高い理念を目標に、地域との協力関係を深めながら、利用者個々の心身の状況に応じ「優しく、丁寧」な対応に努めている。家族は職員に対して非常に高い評価をしており信頼も厚いものがある。これからも地域福祉のインフラとして充実していく

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題については次のように改善されている。家族への報告について:職員の異動等についても詳しくホーム新聞で家族に知らせるようになった。同業者との交流について:管理者のみの交流だけにとどまらず一般職員も研修会、施設交流会に参加させるなど、互いのサービスの質の向上に努められるようになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が中心となり、職員全員が自己評価の目的や意義を理解し、きめ細かく現状を分析・検討し、課題の共有を図り実施している。職員の意識向上、ケアの見直しに活かした積極的な取り組みが見られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議では、ホームの活動状況、利用者の状況、内・外部評価の結果と対応、地域とのかかわり、運営上の課題などについて意見交換されている。これらの意見はきちんと記録し、職員会議で検討されて日々の業務に活かされている。その対応結果についても次回の会議に報告されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見、苦情、不安をできるだけ聞くような機会や場(来訪時、家族会、意見箱等)を設けている。これらの意見・苦情・不安は職員会議、運営推進会議で話し合わせ、ホームの運営やサービスの質の向上に活かされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入。地域人たちに声をかけたり、祭りや行事などには積極的に参加している。このようなことから地域住民のホームへの関心も高まり、ホームへの相談、ホームボランティアの増加、中学生との音楽交流など、地域福祉のインフラとしての動きが芽生えつつある。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で一人ひとりが尊厳を保ち、その人らしく穏やかな暮らしができるよう家族のような関係のサービスを提供する」という法人独自の理念を策定し、日々、理念に沿ったケアを目指して実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は毎月のミーティングで理念を確認・共有すると共に理念カードを携帯して運営方針や具体目標を互いに確認しあって業務についている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事には積極的に参加している。また住民によるホームの菜園づくりの協力や近くの中学生との音楽交流など積極的な取り組みをしている。とりわけ、ホーム前庭行われる町内仮想盆踊り大会にはホームを挙げて利用者、職員総出で準備から大会まで住民と一緒に頑張っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、内部・外部評価の意義を十分に理解している。、前回の外部評価についても、その結果を踏まえていち早く改善に取り組んでいる。改善事項等は職員はもとより推進会議委員、家族にも周知されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、その役割はホームからの一方的な報告にとどまらず意見・要望を受けて、今後の課題に関するモニター役にもなりつつある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市関係者、関連団体にホームの行事など情報を提供している。また運営推進会議委員としてホームの実情や取り組み、課題等について具体的な意見を交換するなど密接な関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や定期発行の「すずらん・すいせん新聞」などで、利用者の日常生活の様子や健康状態なども詳しく伝えている。金銭関係については、会計明細書と領収書を添えて報告している。訪問時に出納簿を見せ確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、家族会開催時に家族の忌憚のない意見を聞くようにしている。また家族の来訪時に意見、不満、苦情など気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。意見箱もあり、運営に反映できるシステムもある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を築くため、職員配置は出来るだけ固定している。やむ得ない異動の場合には利用者への紹介や家族への周知等の配慮に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年度当初に内・外部研修一覧を職員に提示して、職員個々の意見を聞き研修計画を立案している。研修終了後は職場研修の場での報告やレポートを提出するなど、全職員に伝達する仕組みになっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内グループホーム連絡会に入会して他ホームの訪問見学、合同研修会を開催するなど、互いに交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームの雰囲気に馴染むように事前に見学をしてもらい、家族と相談しながら安心感を持ってもらえるよう段階的な工夫をしている。入居後は、環境の変化に留意し、スタッフは勿論こと、同居者とのコミュニケーションをサポートするようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的ホームを目指して利用者の不安、苦しみ、喜びを知ること、共感できる関係を築いている。利用者の得意なことの力を発揮できるよう機会や場づくりに配慮、工夫がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望、意向を日頃の会話や行動から把握するよう努めている。把握困難な場合は家族から情報を得る。また関係者間で情報交換をして本人の視点に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月毎に担当者会議で利用者の意向や要望を協議してスタッフ間で意思の統一を図ってケア計画を作成、それを基にケアマネジャーがチェックしている。会議には必要に応じ家族も参加、本人や家族の要望を取り入れ、利用者に添った介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎に見直しを行っている。状況変化時には変化の原因把握に努め、本人、家族の意向を聞き検討して現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて外出、買い物、通院などの送迎支援をしている。とりわけ利用者急変時にはいつでも病院受診が出来るよう臨機応変な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に内科、歯科の訪問診療があり、適切な医療を受けられる体制になっている。また入所者が身体状況について気軽に相談できるように看護師の確保に努め、日常の健康管理や医療活用の支援もしている。必要に応じて通院支援もしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人、家族の意向に応じてターミナルケアを受け入れる方針であり、職員やかかりつけ医と話し合い対応指針も作成してある。先般、家族に説明し、希望者からも同意書を貰っている。現在までのところ終末の看取りのケアは行っていない。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけや対応は、利用者のプライドを損ねることのないよう留意し対応している。記録などの取り扱いも「個人情報保護法」をよく理解して管理は徹底している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のその日の希望に添って作品作り、散歩、買い物、調理の手伝いなど本人の思いを尊重して個別性のある支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の摂取状態を把握して見守り支援をしている。利用者の力に応じて食事の支度、後片付けなど一緒に行っている。スタッフは楽しい食事になるように雰囲気づくりに気配りして同じテーブルで食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望にあわせて回数、時間など臨機応変に入浴支援をしている。楽しく入浴できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、作品作りなど個々の利用者が役割を見出し、力が発揮できるよう場や機会をつくり支援している。職員との買い物、ドライブも利用者の気分転換と喜びになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に応じて散歩、ドライブ、買い物など戸外に出かける機会をつくり、積極的に戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由に出入りができるので安全に配慮して事故のないように見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報マニュアル、連絡網を作成して避難訓練を年2回実施している。運営推進会議でも実施状況を報告して地域の協力を得るように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成し、栄養のバランスを考え提供している。嚥下困難な人には細食にする配慮、食事・水分摂取量をチェックするなど、個々の摂取状態を把握して適切に摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は採光、温度、換気に配慮し、食卓テーブルやソファが置かれ、思い思いの場所で過ごせるように工夫されている。静かに懐メロが流れたり、季節感のある展示物を掲げるなどして居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が慣れ親しんだ家具、仏壇、調度品が持ち込まれ落ち着いた気持ちで過ごせるようその人らしい居室になっている。		

 は、重点項目。